

学校自己評価及び学校関係者評価

飯塚市立上穂波小学校

令和5年度の学校運営及び教育活動について、本校職員が「自己評価」をしました。自己評価結果から本年度の成果と課題を明らかにし、課題については改善策を立てました。このことについて、学校運営協議員の皆様に評価していただいたのが「学校関係者評価」です。地域から信頼され、地域と共にある学校をめざして、この自己評価及び関係者評価結果を来年度の学校づくりにいかしていきます。

評価項目	評価(割合)%				平均点	成果と課題 (○)(●)	改善策(◇)	学校関係者評価 (評価に対する意見)		
	4	3	2	1						
組織運営	1	各部・係が学校教育目標の具現化に向け、経営の重点に基づいた企画により、校務分掌の遂行にあたっている。	29.4%	64.7%	5.9%	0.0%	3.26	<p>◇各部・係が重点目標を意識し、その具現化に向けて企画・運営することができた。</p> <p>○管理職への報告・連絡・相談を迅速に行ったことで、早期対応を図ることができた。</p> <p>○分掌部会を月一回開催することで、各係の取組について部会で協議することができた。</p> <p>●各部・係は取組のPDCAを確実に実行し、次年度に向けた改善策の引継ぎを行う必要がある。</p>	<p>◇連絡事項等を職員室後方のテレビモニターで掲示しているが、更に終礼時や学年主任等への声かけて周知徹底を図る必要がある。</p> <p>◇各部・係の取組後に教職員からアンケートをとり、反省記録等の情報の共有を行うようにする。</p> <p>◇運営委員会や各種委員会での決定内容を確実に共通理解し、組織的な協働体制の充実を図る。</p>	<p>・日頃から先生方のチームワークの良さ、雰囲気の良い様子が見えており、安心した。</p> <p>・職員間で自由に意見が言える体制は、子ども達にも良い影響となって還元される。</p>
	2	各部・各係・組織の役割や仕事内容・範囲が明確にされている。	29.4%	64.7%	5.9%	0.0%				
	3	各部・係の取組のPDCAサイクルを実施し、取組の改善を図っている。	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%				
	4	管理職に対する報告・連絡・相談体制がとれている。	29.4%	70.6%	0.0%	0.0%				
	5	教職員間の情報共有と組織的な協働体制がとれている。	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%				
教育課程	6	年間指導計画に沿って、計画的に教科等の授業を行っている。	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	3.18	<p>○各学年年間指導計画に沿って、実施することができた。また、若年教員が多いことから、校内若年教員研修を行い、授業力向上をめざした研修を行うことができた。</p> <p>○授業の中で、積極的にICTを活用し、教職員の情報活用能力も高まった。</p> <p>●書写指導の梶谷先生や地域の社会福祉協議会や郵便局、筑穂庁舎の方など積極的に活用することができたが、学年によってはあまり活用できていない状況も見られた。</p>	<p>◇主題研修をはじめ、校内若年研修を通して、授業の質の向上を図る必要がある。また、授業チェックリストを活用した授業公開ができなかったことから、来年度は計画的に実施していくようにする。</p> <p>◇地域の人・もの・ことを計画的に活用していくために、総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを行い、学習内容の引継ぎを行うようにする。</p>	<p>・コロナ禍で途絶えてしまった地域との関係が復活できるよう呼びかけてほしい。</p> <p>・地域とPTAが連携した学校独自の取組で地域の良さ、ふるさとの良さを実感してほしい。</p>
	7	学習のめあてを設定し、まとめと整合した学習指導を行っている。	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%				
	8	教育活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせての参加・振り返りができている。	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%				
	9	地域のひと・もの・ことを活用した学習指導を工夫することができている。	5.9%	76.5%	11.8%	5.9%				
	10	授業にICTを効果的に活用し、わかる授業づくりに努めている。	23.5%	58.8%	17.6%	0.0%				
危機管理	11	危機管理マニュアルにおける分担と役割を理解している。	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%	3.20	<p>○毎月1日の全教職員による安全点検により、迅速に対応することができた。また、AEDの教職員研修を実施し、危機管理に対する意識を高めることができた。</p> <p>●危機管理マニュアルの周知徹底を図るための職員研修を行い、PDCAを行う必要がある。</p>	<p>◇学校安全に関する行事の実施後は職員会議を行い、マニュアルの確認とともに課題と改善点を協議・整理し次に繋ぐ。</p>	<p>・引き渡し訓練はありがたかった。実際に起こった時を想定したりリアルな訓練を継続してほしい。</p>
	12	安全や危機に対する指導・教育を児童に適宜行っている。	29.4%	70.6%	0.0%	0.0%				
	13	建物・設備・遊具の安全点検や修理等を行っている。	35.3%	52.9%	5.9%	5.9%				
人権教育	14	児童一人一人の人権を大切にされた指導・対応を行っている。	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%	3.24	<p>○学級の児童数が多い1・3・5年生は、TTを活用した複数の教員による授業や少人数分割授業などを実施し、きめ細やかな指導を行うことができた。</p> <p>○人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を共通理解のもと、取組を進めることができた。</p> <p>●言葉遣いに荒さがあり、個別指導だけでなく、学級活動や道徳科において計画的に行う必要がある。</p>	<p>◇あたたかい言葉かけやコミュニケーション能力の向上など、発達段階に応じた人権感覚を養うための学級活動(SST)や道徳科学習の充実を図る。</p> <p>◇人権教育学習教材集「あおぞら2」などを活用し、個別の人権課題に対する学習を進め、自他の人権を大切にできる子どもの育成に努める。</p>	<p>・「さん」呼びは相手に尊敬の念を抱いた呼び方。人を大事にした呼称は将来社会でも役立つので指導を続けてほしい。</p> <p>・先生方が子ども達の人権を大切にしている評価が高いのが大変よい。</p> <p>・問題があった時の対応も素早くしてもらった。</p> <p>・児童クラブとの連携が図れている。</p>
	15	日々の授業で、個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を行っている。	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%				
	16	学力の基礎・基本の定着を図るための具体的な手立てを工夫している。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%				
	17	児童の人権感覚や豊かな心を育てる取組を工夫している。	29.4%	64.7%	5.9%	0.0%				
	18	丁寧な言葉づかいや名前を呼び捨てにしない指導を徹底している。	11.8%	70.6%	17.6%	0.0%				
生徒指導	19	児童一人一人の居場所がある学級集団づくりができている。	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%	3.20	<p>○不登校やいじめ問題に対して報告・連絡・相談体制の徹底を図ることができた。</p> <p>○生徒指導研修会を通じて、アクション3の意義の理解や家庭への対応について共通理解を図ることができた。</p> <p>○毎月のいじめ・不登校対策委員会でアンケート等による子どもたちの実態を確認し、不登校傾向やいじめの早期発見、早期対応を行うことができた。</p> <p>●問題発生して対応する消極的な生徒指導から成長を促す積極的な生徒指導を行う必要がある。</p>	<p>◇規範意識の醸成を図るために、教職員の一貫した指導及び家庭との連携を今後も進めていくようにする。</p> <p>◇自己肯定感や自己有用感を高めるために、キャリアパスポートを効果的に活用していくための授業づくりについて研修していくようにする。</p> <p>◇よりよい人間関係を育むための学級経営の視点から、学級集団としての取組(チーム力の向上)や一人一人への評価の充実を図るようにする。</p>	<p>・子ども達のあいさつがよくできている。</p> <p>・不登校数は少ないが、細やかな働きかけを継続してほしい。</p> <p>・キャリアパスポートの活用で自尊心の高まりが期待できる。</p> <p>・縦割り活動の良さを生かした取組も大切にしてほしい。全校児童によるランチルーム給食の実施など上穂波小独自の取組の検討も行ってほしい。</p>
	20	挨拶や学習の準備・整理整頓など、基本的な生活習慣の定着を図っている。	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%				
	21	学校のきまりや社会規範を守る指導を徹底・継続している。	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%				
	22	様々な場で児童一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感を味わわせている。	5.9%	94.1%	0.0%	0.0%				
	23	不登校やいじめ問題に対して未然防止・早期発見・早期対応など組織的な対応を行い、職員間で共通理解を図っている。	29.4%	64.7%	5.9%	0.0%				
	24	生徒指導に関する関係機関との連携・協力を積極的に行っている。	29.4%	70.6%	0.0%	0.0%				
研修	25	授業研究を年1回は実施し、仮説・着眼の有効性を検証することができている。	29.4%	70.6%	0.0%	0.0%	3.20	<p>○主題研修において、授業公開・協議会を通して、個別最適な学びや協働的な学びのある授業の在り方について検証することができた。</p> <p>●自己の力量を高めていくためには、キャリアステージに応じた校外研修への参加を促していく必要がある。</p>	<p>◇理論研はもとより、全体研修の授業者は指導案作成において指導主事等から授業への考え方を学び、校内へ還元していくようにする。</p> <p>◇校外研修については計画的に参加できるように校内体制を整えるようにする。</p>	<p>・ICT教育など時代の先端を行く教育活動は大切にしてもらいたい。家庭でも社会のニュース等にも目を向け情報共有したい。</p> <p>・教師が自己研鑽に務めることは大切である。その中でも、子どもと接する時間をしっかりと確保してほしい。</p>
	26	学力テスト等の結果を分析し、実態と課題に応じた学力向上の取組を行っている。	35.3%	58.8%	0.0%	5.9%				
	27	職員は校外の研修等に積極的に参加し、自己研鑽に努めている。	23.5%	58.8%	17.6%	0.0%				
その他	28	学校は校舎内外の清掃が行き届き、掲示物をこまめに取り替えている。	17.6%	76.5%	5.9%	0.0%	3.03	<p>○プランプランを通して、学年や学級の取組の情報を保護者に発信することができた。</p> <p>○引き渡し訓練や除草作業などは家庭だけでなく地域の協力も得て実施することができた。</p>	<p>◇業務改善として、放課後の教材研究などの時間の確保から毎週火曜日は原則会議を入れない方針を継続していくようにする。</p> <p>◇学校通信やHP等で学校から情報を発信し、地域に開かれた学校を目指す。</p>	<p>・働き方改善は大変だと思うが、工夫して業務改善に取り組んでほしい。</p> <p>・リアルタイムで様子を知らせることができるといい。</p> <p>・プランプランは学校を身近に感じられてよい。</p>
	29	働き方改革の意義をふまえ、業務の改善・効率化に取り組んでいる。	5.9%	64.7%	29.4%	0.0%				
	30	通信や家庭訪問、懇談等を通して家庭・地域と連携して児童の健全育成に努めている。	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%				